

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.165

2019. 7. 1
発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議
連絡先 県生協連・県消団連
TEL 019-684-2225
FAX 019-684-2227

広めよう！「安倍9条改憲NO！憲法をいかす全国統一署名」

岩手の3,000万署名数は17万6千筆 (6月末現在)

署名ハガキの返信は、395通・1,180筆分ありました！

※手元に署名がある場合は、岩手県生協連までお送りください。

一人ひとりが人間らしく輝くために、憲法をまもろう！

～いわて女性・九条の会14周年講演会～

6月1日、100人余の参加で「歴史を戻してはいけない！～9条への自衛隊明記で安倍政権の野望はどこまで広がる？」と題し、平山知子弁護士を講師に、講演を行いました。

最初に、あと2か月で80歳を迎えると自己紹介した平山さんの若々しさに称賛の声が上がりました。そのエネルギーは、弁護士になり、結婚し、子ども3人を育て人間として当たり前のできていることから生まれ、毎日が憲法に守られているからだ、と説明。特に、憲法13条（幸福追求権）や24条（両性の合意のみの婚姻・個人の尊厳）、25条（生存権）、27条（働く権利・人権）、28条（団結権・団体交渉権）に毎日

の生活が保障され、さらに97条によって基本的人権の手厚い保障があり、思想・信条・信教の自由・集会、結社、表現の自由・学問の自由・職業の自由（例外＝天皇）が認められていることが支えに。さらに、平和的生存権が「憲法前文」で謳われ、9条に「軍隊はいらない、戦争は放棄する」と続き、98条・99条の立憲主義によって権力者を縛る憲法が自分たちを無意識的に支えている、と訴えました。

また、「現憲法以前は、教育や治安維持法体制・イエ（家）制度によって巧みに国民を侵略戦争に動員され、その過ちの歴史が再び繰り返される危機がそこまで来ている。70年余続いた今の憲法がそうは簡単に崩れないことに確信を持って進みたい」と説明。9条に自衛隊を書き込む危険性は、第2項を事実上廃止し、いかなる行動も可能になり「殺し、殺される自衛隊」になること。そのため、自衛隊は毛嫌いされ徴兵制度につながる、と危険性を指摘しました。

最後に、私たちは主権者として「私たち一人ひとり、みんな人間らしく輝いて、平和のうちに生きていくために、選挙で憲法を守るところに投票しよう！」と呼びかけました。（伊藤慶子）



第34回県内一周 反核平和マラソン

6月4日に、日中の暑さを予感させる好天の朝、釜石役所前に近隣の釜石・大船渡・大槌から30人余り青年が結集。4日後の盛岡市役所前ゴールを目指し、北周りと南周りに分かれ、延べ600人がタスキを繋げ、県内を一周して反核平和をアピールして走ります。

主催者の岩手自治労連青年部部長の松橋峻介さんは、核兵器禁止条約を取り上げ、「ヒロシマ・ナガサキの原爆投下により多くの罪のない人々の命が失われ、今も後遺症に苦しんでいる人が居る。当事者である日本が核兵器使用に反対の立場をとっていないのは残念だ」と、住民の生活に寄り添う自治体職員の立場からも、盛岡のゴールまで平和の思いを広く発信して走って欲しいと語りました。

引継ぎ地点の各役所前では、首長自ら挨拶戴くなど、34年の取り組みが県内の多くの自治体で反核平和の声を上げる世論づくりの一翼を担ったと自負し、今後も取り組みを続けていきたいと思っています。（菊池俊）



世界に誇れる9条を持っているのに生かせない日本！コスタリカから学ぶ

～映画「コスタリカの奇跡」上映会開催～

6月8日に、ドキュメンタリー映画「コスタリカの奇跡」上映会を実施。184名が鑑賞しました。米内、松園、黒石野、緑が丘、高松地域の9条の会、新婦人の会、盛岡医療生協、いわて生協ピースキャンパスが実行委員会をつくって開催。コスタリカにホームステイした、盛岡市在住の井上和さんのお話も聞きました。



コスタリカは、1948年に軍隊を廃止。軍事予算を社会福祉に充て、国民の幸福度を最大化する道を歩みました。積極的平和国家の作りかたを目にした参加者からは、「軍隊のない国を模索して様々な苦難を乗り越えながらのコスタリカの奇跡。ひとり一人が大切にされるため、戦争や軍隊へのお金の使い方だめですね。アメリカに強く批判する（女性60代）」「一人でも多くの人に見てもらいたい。アメリカからのF15の爆買い許せない、安倍政権の9条改憲もってのほか（男性70代）」

「世界に誇れる9条を持っているのにそれを生かせない今の日本が情けない。コスタリカから学ぶべきだ！（70代）」「軍隊がないから強くなったという事実に感動しました。本当にその通りで日本でも実現させたいと心から思います（女性40代）」などの感想が寄せられました。

実行委員会では、3,000万署名を今後も続けていくことを呼びかけ、閉会しました。（松園9条の会・小林絃一）

👉 本心に「外交の安倍」か、二度も化けの皮が剥がれる！

巷間「外交の安倍」が話題、とりわけ参議院選が近づくとつれ、世界を走り回る安倍首相が盛んに報道されています。

しかし、「アメリカとイランの仲介役」然としてイランを訪問し、最高指導者のホメイニ師と会談の最中にイラン沖で「日本のタンカーに砲弾」と報道。乗員に被災は不幸中の幸いで軽微とか、乗員は危険この上ないものを感じたことでしょうか。「安倍外交」で思い出すのは2015年1月17日の「エジプト演説」です。この時の安倍首相の「演説」は「イスラム国と闘う関連各国に総額で2億ドル程度の支援を約束する」（要旨）と表明したものでありました。対して同「国」側は早速インターネット動画で日本人ジャーナリスト2名を拘束した場面を映し出し、傍らにメッセンジャー立ち、「その金をこっちに寄せせ」と強要。拘束された「2名」に憐れみを示しながら日本国民は「安倍の外交」の「危うさ」を実感したものであったと思います。

改めて「安倍の外交」は「国益」と「日本国民の利益」を害する以外の何物でもないことが白日の下に明らかになったと思います。

日本とイランはイラン革命以前から歴史上長い「友好国関係」にあります。そのことも踏まえてザリフ同国外相が5月、東京での「日米首脳会談」直前に来日し「イランの意向」をトランプ米大統領に伝えて欲しい旨安倍首相に依頼したと言われておりました。果たして安倍首相は同大統領に伝えたでしょうか。巷間「伝えなかったでしょう」と言われておられます。

「タンカー被弾」に話を戻せば、日米（軍事）同盟に基づく、「2+2」などの「軍事外交」ではアメリカと同様に日本も「敵」とみなされる「外交」だと言わなければならないでしょう。「外交の安倍」などではなく「安倍の外交」は「戦争の危険」ということではないでしょうか。（T）

「7月の署名活動について」

7月21日に参議院選挙がありますが、公示後に宣伝行動をすることが難しいことと、各団体の体制が整わないことから、7月の街頭署名行動は実施しないことにしました。8月については、またあらためてご案内いたします。憲法が生かされ、人権が守られる政治を求め、ぜひ投票に行きましょう！